

## 報 告

### 1、第15回国際印刷大学校主催 高品位印刷画像講演会（11月8日、大阪国際会議所）

近年、CTP、FM スクリーニングなど高品位な印刷画像が注目されるようになって来た。関西地区では古くから6～7色のプロセス製版が商業美術印刷分野で高精彩の画像を目指し行なわれてきた。このような中でヘキサクローム（6色）、Fi-Hi 印刷（7色）にチャレンジしている富士精版印刷㈱、㈱研文社から講演して頂いた。国際印刷大学校石川 忠理事長の代理で富士精版印刷㈱相談役岡田忠員氏の挨拶に続いて次の3氏による講演が行われた。

（1） Fi-Hi カラー印刷 富士精版印刷㈱ 淀野温敏氏

（2） ヘキサクロームの印刷 ㈱研文社 三浦芳祐氏、松根 格氏

淀野氏はFi-Hi カラー（7色）と4色カラー印刷の多くの資料をもとに比較検討し、Fi-Hi カラーに適切な原稿選択と作品制作の観点からまとめられた。

ヘキサクロームの印刷では松根氏がこれの導入経緯と印刷の事例の観点から総論でまとめられ、次いで三浦氏からワークフローを中心に新しいバージョンの展開を述べ、印刷された各種作品（ハリーポッターなど）の説明が行なわれた。

富士写真フィルム㈱から高濃度印刷テクニカルハンドブック、国際印刷大学校から三菱重工㈱で行なったBASFのインキによる高濃度印刷の印刷実験のデータなどが提供された。参加者は地元以外に東京、新潟、静岡等多くの参加者があり、活発な討論が展開され、高品位画像の関心の高さが伺えた。

第16回講演会は2003年2月6日PAGE03で富士写真フィルム㈱から「CMSによるプリプレスからプレスまでのカラーフロー」の講演を行います。

### 2、日本印刷学会秋期研究発表大会（11月7、8日、大江ビル）

11月7、8日の両日26件の研究発表と3件の特別講演が行われた。研究発表件数、参加者も年々増大傾向にあり、内容も広がりを見せている。これらの内容を理解するには歴史学、数学、統計学、物理学、化学、色彩学、印刷学、画像処理学、経営学、環境学などの基礎的学問と最近の印刷技術動向を把握しなければならぬ。研究発表委員会メンバーはこれらをサポートする意味で発表会の質問、討論内容をまとめ会員に伝達する義務があり、それが次の研究発表や論文投稿などのステップになろう。

政府から知的財産戦略大綱が2002年7月に発表されて、知的財産立国を目指している今日、学会、大学、研究機関、印刷及び関連産業が一体となって取組む体制が必要である。

### 3、電気四学会関西支部講演会 e-Learning の最新動向（11月8日、中央電気倶楽部）

日本イーラーニングコンソシアム会長 小松秀園氏の「今なぜ e-Learning なのか」日米の比較から日本の遅れを指摘し、今後の展望に関しまとめた。また、NTT 仲林氏から標準化問題、大阪大学柏原氏からWeb-based Learning の話題が提供された。また、日本ディスタンスラーニング学会の研究発表会は2002年12月9日静岡コンベンションセンターで開催される。

### 4、印刷ネット討論会（11月6日、都ホテル）

印刷のすべてのコンテンツをまとめた Web 構築に関する討論、特に印刷コスト論、印刷料金問題に科学的なメスを入れた内容で印刷界の救世主的存在を目指す。

#### 5、シルクロード展（11月9日、大阪歴史博物館）

アジア大陸を横断する古代の交易路（シルクロード）でグーテンベルグの印刷の発明も東洋の印章などにヒントを得たものとも言われている。今回の展示品には参考になるものが多かった。（12月16日まで）

活気のある大阪での新しい発見と技術開発が東京での経済活動に寄与している事例が多く、今後、日本の経済再生に直結すると思われる土壌が大阪の街にあった。（2002年11月22日）